

令和4年度第1回 関西広域産業ビジョン推進会議 議事要旨

【日時】 令和4年10月7日（金） 10時から12時

【場所】 大阪府咲洲庁舎 50階 迎賓会議室

【出席者】 別添名簿のとおり

【議事】

- (1)-1 令和4年度広域産業振興局 事業計画及び中間報告について（資料1-1、1-2）
- (1)-2 令和5年度 広域産業振興局事業及び予算（案）について（資料2-1、2-2）
- (2) 「関西広域産業共創プラットフォーム事業」について（資料3）

【委員からの主な意見】

（議事(1)-1、(1)-2）

- ・ 関西を活性化させるランドデザインを関西広域産業ビジョンで示してみてもどうか。
- ・ ビジョンについては、まず全体像があって各プロジェクトが動くということをこれまで議論してきたが、もう少しわかりやすく整理することは重要。
- ・ 関西圏域独自の労働市場のあり方や働き方を関西広域連合が提案するくらい、頑張ってもらいたい。
- ・ 関西スタートアップエコシステムについて、『ディープテックバレー関西』をブランドとして確立するためには、尖ったスタートアップをはじめとした様々な特色を持つ企業を、関西広域連合が上手く整理して世界へ発信していく必要がある。
- ・ スタートアップのブランド発信は中身をばかさず、名前と内容が一致しているかどうか非常に重要。3年や5年でブランド化するのは難しく、定着するまで時間がかかるので、継続的に事業を進めてほしい。
- ・ 万博が近づいていることもあり、ライフサイエンス分野が産業の中心として取り上げられると思われる中、ライフサイエンス分野をどうするのか、もう少し何か訴えられるものがあれば良い。
- ・ スタートアップの取組について、ディープテックをテーマにした取り組みは非常に重要と思う。期待している。

- ・関西のスタートアップは、地元でお金を集められない、経営人材を確保できないということが問題なので、その解決のためにスタートアップ支援に関わる機関で役割分担して取り組むとよいのではないか。
- ・万博に向けた打ち出しや発信を行うことを検討してはどうか。
- ・関西広域圏において、企業の内部労働市場とサポートする外部労働市場がうまく接点を作っていくような新しい仕組みを政府に提案してはどうか。
- ・スタートアップに取り組むに当たって、スタートアップで何をするのかというコンセンサスが必要。広域連合で何をやっていくのか、関西で何をやっていくのかという部分の議論が必要。それがないと今はやりの問題を取り扱っているというように上滑りした形で見られてしまう。

(議事 (2))

- ・例えば、医療機器相談事業で相談した企業もプラットフォーム事業で有機的に連携するようにすれば広がりができる。
- ・今まで広域的に一气通貫で対応する組織が無かったので、その役割を担うことになっていくと思うが、様々な分野の専門性の充実と、金融機関との連携で事業化した時に経営が成り立つのかといった点なども相談できる、ワンストップで回答がもらえるような組織を期待している。
- ・技術支援とともに事業化支援も同時に行うことがポイント。ただ、今のままでは旧態依然とした印象はぬぐえない。例えばクラウドを活用した資金調達といった新しい要素を組み込むなど工夫が欲しいと感じた。社会経済に呼応する形で事業体制を常に進化させていくことが大事。
- ・今より何歩も先に進んだ失敗を恐れない大胆な姿をデザインしてほしい。
- ・オープンイノベーションの一つの装置として位置付けていくことが重要。